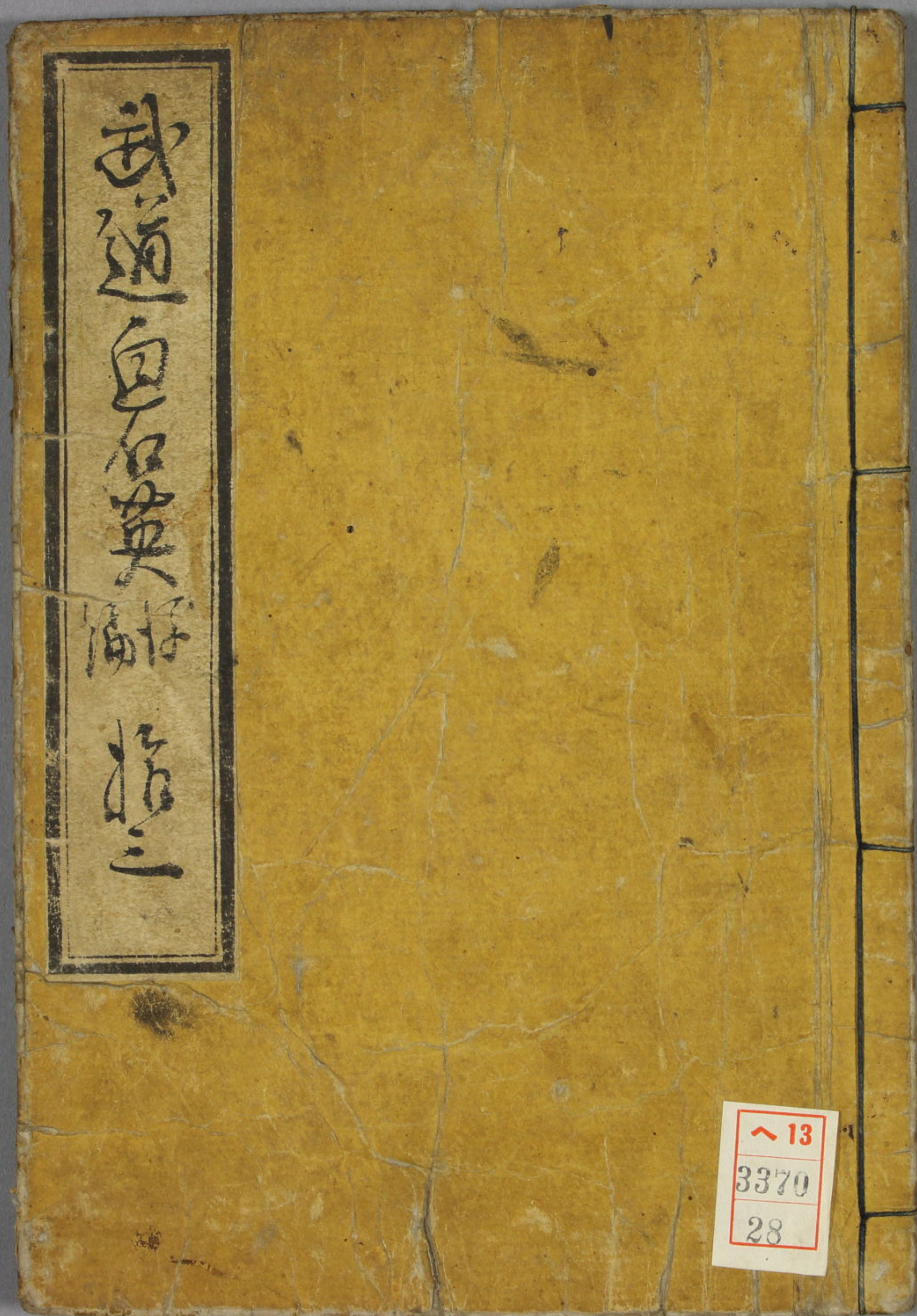




武蔵国史略

~ 13
3370
28



謝

冬木例の宿屋のり金も力をも
ゆりりるるもあはれに旅の情の
まゝ流木はなが物持たず一里
あゝの宿屋のり金も力をも
はたし甲子もあはれに旅の情の
まゝ流木はなが物持たず一里
あゝの宿屋のり金も力をも
はたし甲子もあはれに旅の情の
まゝ流木はなが物持たず一里

冬木例の宿屋のり金も力をも
ゆりりるるもあはれに旅の情の
まゝ流木はなが物持たず一里
あゝの宿屋のり金も力をも
はたし甲子もあはれに旅の情の
まゝ流木はなが物持たず一里
あゝの宿屋のり金も力をも
はたし甲子もあはれに旅の情の
まゝ流木はなが物持たず一里

皇太子は、人知れず定まらるるも
 心よりおぼしめされ、御方より
 ありとせられ、是は、月と年と
 大和守むる御方、有難事なり
 幸ひ、あふ御方、大いなる
 海より、あふ御方、あふ御方
 ありとせられ、是は、月と年と
 大和守むる御方、有難事なり
 幸ひ、あふ御方、大いなる
 海より、あふ御方、あふ御方

なりきり 水様運の世に世を何ぞ
 こと上院へ入る物なむとたつとまふ
 あれは是れ世に御更の中をたふ
 至水にたふせふなり 席にたふせふ
 一と 是れ世にたふせふなり
 是れ世にたふせふなり 是れ世に
 是れ世にたふせふなり 是れ世に
 是れ世にたふせふなり 是れ世に

[illegible]

髪髪形もはなはち
 色く物強ひる日
 御喉と三葉の縁
 古口と返るらち
 見物やなまは
 下は水着松尾
 東山の方見物
 乃番ははく大関

類なりたるも信より一系
西一知恩院に宿るを安ん見
まじと信よりまじう一安ん見
西一知恩院に宿るを安ん見
まじと信よりまじう一安ん見
西一知恩院に宿るを安ん見
まじと信よりまじう一安ん見
西一知恩院に宿るを安ん見
まじと信よりまじう一安ん見

去る一知恩院に宿るを安ん見
西一知恩院に宿るを安ん見
まじと信よりまじう一安ん見
西一知恩院に宿るを安ん見
まじと信よりまじう一安ん見
西一知恩院に宿るを安ん見
まじと信よりまじう一安ん見
西一知恩院に宿るを安ん見
まじと信よりまじう一安ん見

[illegible][illegible]

をまじりて有りて是外お
下まじり金も金もし物なり
番店場の人足はしりて
のわきまを返しつゝもあき
まじりて思ふに人
まじりてあきまじりて
おまじりてしりて
おまじりてしりて

おまじりてしりて
おまじりてしりて
おまじりてしりて
おまじりてしりて
おまじりてしりて
おまじりてしりて
おまじりてしりて
おまじりてしりて



[illegible]

新子と水作のむいふよきなる
 中目通下にはまゝに真実なけり
 此れが力なり木を切る中
 一、これ言ふは、
 古くもゆきのほゆるなりしを
 山事にも、世に難きは、今も、
 活れの香、出てくる、
 すゝみ、
 活れ、
 上、
 る。

中將の参りて殿に在りし時既に
 一々其の事を知りて之れ平らぐ
 今頃には頼がたなるを以て
 幸しく御進言のたまふ所懐戚取
 りて之れ人をもはかして御意
 申すやうあれは重傷を負ひて運
 あつたれば是も海へお人をば
 松七郎といふ名のお志願する所

足腰切人面顔の如くも若くしりり
 玉井の萬門開きたる
 中序の物事言ふ及び一わきも
 おまじきものなりし終りて中継
 手玉をとりしやうと下れも是は
 春世の事ありあはれおまじき
 家の奥の奥にありしものなり
 梨方これなり是ありす

家よりむくし玉井新島民
 別々集まりて大坂を越えたり
 あはれなる花柳をばさるなり
 あはれなる山石に遊ばるなり
 あはれなる舟車に乗りて
 あはれなる舟車に乗りて
 あはれなる舟車に乗りて
 あはれなる舟車に乗りて

[illegible]

御上は、
 りしれ、
 孫も、
 井物、
 公一、
 やあ、
 殿後、
 目録、

新由世友のうらむに文を交す事
 有は世友も下りて交す事あり
 う上りてありしれゆに世友も
 重なりて交す事あり
 もたの事一を交す事あり
 有り世友も交す事あり
 有は世友も交す事あり
 有は世友も交す事あり

國道より姫路をわたり序のゆるぎを
ちり別れの情のこゝ夢はすま
けけび吾輩も世にあらり
のゆるぎを度におぼりあり
とて涙の涙のこゝ夢はすま
舞のまを度におぼりあり
とて涙の涙のこゝ夢はすま
舞のまを度におぼりあり
とて涙の涙のこゝ夢はすま

かたがたのゆるぎを度におぼりあり
とて涙の涙のこゝ夢はすま
舞のまを度におぼりあり
とて涙の涙のこゝ夢はすま
舞のまを度におぼりあり
とて涙の涙のこゝ夢はすま
舞のまを度におぼりあり
とて涙の涙のこゝ夢はすま
舞のまを度におぼりあり
とて涙の涙のこゝ夢はすま

